

情報連絡員報告総括表(令和8年1月期)
富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	↗	→	↘	→	→	→	→	・特になし。
	パン製造業	↘	→	↗	→	↘	↘	→	→	↘	・販売価格の値上げを行ったところ、売上個数が減少している。 ・取引先企業の経費削減により、残業食の注文個数の減少や残業食の提供を取りやめる企業が出てきている。
	処理牛乳・乳飲料製造業	→	↘	↗	→	→	→	↘	→	↘	・原乳の処理量(在庫数量)は減少しているが、今年の値上げによって、売上高が不変となっている。
繊維工業	ニット製造業	↘	→	↗	→	↘	→	→	→	↘	・業界の景況は全体的に悪化傾向、特に衣料関連が悪化している。 ・サプライチェーンにおいて、染色加工が生産性を低下させる要因となっている。 ・価格転嫁は、順調に進んでいる。
	絹人織織物業 絹製造業	↘	↗	→	→	↘	→	→	→	↘	・織物業の状況は先月と変化はない。 ・人件費の上昇や借入金利の上昇に伴い、収益の悪化が予想される。 ・売上数量の増加や販売価格を値上げすることで収益を維持したいが、消費者は生活必需品の購入を優先し、織物商品の需要が停滞していることから、商品の値上げに苦慮している。
	綿・スフ織物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	→	・組合員企業の減少に伴い受注が減り、収益は悪化している。 ・一部企業に設備の更新があり、3月以降の受注増を見込んでいる。
木材・木製品	一般製材業	↘	↗	→	→	↘	→	→	→	→	・新設住宅着工戸数は前年同月比31.6%減と2桁の大幅な減少が続いており、減少による需要の落ち込みは、木材産業関係事業者全体の経営環境を厳しくしている。特に、建築基準法改正に伴う対応の影響が大きい中小工務店からは、生き残れないとの声が聞こえてくる。 ・ロシア材取扱事業者は、円安による入荷コストの上昇によって、これまでの過剰な在庫の滞留とともに景況を悪化させている。 ・プレカット工場については、住宅着工数の減少による稼働率の低下が続いているため、非住宅分野での受注に期待しているが、継続的な受注に繋がっていない。 ・木材価格は、素材・半製品・製品ともに大きな動きは見られず、低位安定になっている。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。

印	刷印 刷 業	→	→	↗	→	→	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・4月からまた資材の値上げの動きがあり、各社時期の違いはあるが、価格転嫁の準備に入らなければならない。恒常化する資材の値上がりへの対応は、避けられない継続的な課題である。
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料や物資の価格上昇が続いており、収益を圧迫している。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比約75%と降雪期に入り前年実績を大きく下回っている。地区別でも、全地区において前年同月を下回る実績となっている。 ・4月から県全体の累積出荷量は、半年ぶりに前年実績を割り込む結果となっている。
	コンクリート製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
	骨材・石工品等製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・生コン業界、コンクリート二次製品業界、アスコン業界等、得意先と令和8年度骨材納入契約の準備を始めている。 ・原材料や生産コスト増により経営を圧迫しており、令和8年度より骨材価格を値上げする。 ・骨材需要は、堅調な状況が続いている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・生産量は低調に推移している。 ・世界情勢が混沌としており、悪影響が懸念される。 ・先行きの景況感は悪化している。
	銅・同合金鑄物製造業	↘	→	→	↘	↘	→	→	→	↘	・地金価格が高騰している。
	アルミニウム製品製造業	↘	→	↗	→	→	→	↘	→	↘	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・組合員企業の操業度、業績に大きな変化はないものの、一部産業用機械、建設用機械関係においては低迷が続いている。 ・国税、地方税のオンライン振込とネットバンキングによる公共料金等の自動引落とし、ネット振込を導入し、業務の効率を改善している。
	めっき加工業	↘	→	→	→	↘	→	↘	↘	↘	・取引先からのめっき加工依頼の減少が続いており、売上の前年同月比は減少傾向にある。 ・資材・原材料なども高騰しており、収益状況は悪化している。
一般機器	金属工作機械製造業	↗	→	→	→	↗	→	→	→	→	・欧州や一部アジアにおいて、設備投資に対して回復傾向が見られることから、一部海外市場(欧米・米州の産業機械・市販分野)で需要が拡大し、受注状況や業績が改善(増加)してきている。
	金属加工機械製造業	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	・特になし。
	非金属用金型製造業	↘	↘	→	→	↘	→	↘	→	↘	・今年に入り、前期よりも状況は悪いとの情報が多く、特に車関連の受注が少なくなっている。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	↗	→	↗	→	↗	→	↗	→	↗	・産業機器向けの電子部品の需要が回復傾向にある。 ・自動車向けは、国内生産台数が減少しているものの、新製品については計画通り増加している。 ・新製品開発も順調に推移しており、昨年と比較して業界の景況は好転しているが、コロナ前の水準には至っていない。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・積雪等により、販売展示関係先の来客数が減少しているため、売上への影響が心配される。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	セメント卸売業	↘	→	→	→	→	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・1月は降雪に阻まれて工事が停滞したため、前年同月比85.5%と下回っている。4月～1月の売上累計については、前年比103.0%とプラスを維持している。 ・冬季間の売上は天候次第となり、減少を見込んでいるが、今後、昨年同額で推移すれば前年比を約7,000袋オーバーで着地できると期待している。
	非鉄金属製品卸売業	↘	↘	↗	↘	↘	↘		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料価格、副資材費の高騰が依然として続いており、価格転嫁が追いついていない。値上げしたために受注が止まってしまう例も見られ、商取引の厳しい日々が続いている。 ・また、最低賃金は上昇が続き、経営側は内外から収益を圧迫され、継続、存続が厳しい局面に来ている。 ・中国の輸出規制についても、製造分野で直接的な影響を受けている。
小売業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	→	→	→	↘	↘	↘		↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・雪の影響で売上は減少している。 ・仕入価格の上昇が収益を悪化させている。
	野菜・果実小売業	↘	→	→	→	↘	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・1月の富山卸売市場は、前年同月比で数量92%、単価101%、売上92%となっている。 ・組合員全体の売上については、前年同月比85%となっている。
	家庭用電気機器小売業	↘	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	↘	→	↗	↘	↘	↘		↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制など、SSの経営環境は依然として厳しい。 ・物価高による利用者の節約志向が響き、ガソリン販売量の減少は続いている。引き続き、需要の回復感は弱い。 ・ガソリン暫定税率が廃止され、引下げ前の高値在庫を売り切るには一定期間要するため、短期間で引下げは経営の打撃となる恐れがある中、補助金を上回る価格下落傾向が顕著になり、市況は悪化傾向にあるものの、1月末には若干上昇傾向となっている。
	スポーツ用品小売業	↘	↗	↗	↘	↘	↘		↘	↘	・事業の後継者問題に直面している。
ショッピングセンター	→	→	↗	→	→	→		→	→	・1月後半以降は、雪の影響で売上が伸び悩んでいる。	

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・例年、年明け後は人出が少なくなる傾向にあるところに、二度の寒波の影響が重なって、周辺駐車場の空きが目立ち淋しい状況である。 ・飲食店では、観光オフシーズンで少なくなった外国人に代わり地元の客が多く訪れ、ゆっくり過ごしていく傾向が見られる。
	商店街	↘	→	↗	→	↘	↘		→	↘	・二日間開催のイベントが一日休みとなり、商店街の客入りが大幅に減少した。 ・物価高の影響で、買い控えが起きている。
サービス業	情報サービス業	↗		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	クリーニング業	→		→	↘	↘	↘		→	→	・特になし。
	飲食業	→		↗	→	→	→		→	→	・特になし。
	建築設計業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・1月の自動車新車新規登録・届出台数(登録車と軽自動車の合計)は、前年同月比で2ヵ月ぶりに減少している。 ・新車販売市場は、ユーザーの潜在需要は底堅く推移しているものの、実質賃金のマイナスは続き、また幅広い分野で値上げの動きが広がっていることから、楽観できない状況である。 ・自動車整備事業者は、各種自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えている。こうした課題に対応できない事業者は、自社の取扱い車種が加速度的に減少していく状況にある。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	↘		↘	→	↘	↘		↘	↘	・仕事量が増えている大手鉄骨加工業者がある一方で、物件の中止や先送り、規模の縮小などによって中小物件の積み上げで工場稼働率を維持している大手鉄骨加工業者も見られる。中小鉄骨加工業者との軋轢が心配される。 ・需要は変わらず低調である。 ・鋼材は昨年より下げ基調であったが、大手鋼材特約店がメーカー値上げ分の価格転嫁を打ち出しており、仕事量の少ない中難しい対応が求められる。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・会員は、除雪作業や宅内漏水修繕依頼の対応に追われている。 ・景況に変化はない。 ・資材や労務単価のアップ、震災の影響で老朽水道管対策費が増額したことで、県内各自治体の水道管工事の新年度予算は、昨年度より増額している。
	電気工事業	→		↗	→	→	→		→	↗	・銅の高騰により、電線価格の上昇、電設資材が値上げされている。 ・2027年で蛍光灯製造中止・輸入禁止となるためLED化されることで、需要増になることから、照明器具の入荷が滞る影響が出てきている。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	↗	→		→	→	・軽油の暫定税率分が補助金として補填され、軽油価格は前年同月比-17円/ℓ前後となり、収益状況は改善している。
	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・物量は、前年同月比100.9%と前年並みである。